

CES 活動ニュース

1. あなたの美味しい「エコレシピ」を大募集！～ランチエコキャンペーン新企画～

区にかかわる全ての人々を対象にした、ちよだランチエコキャンペーンも10回目を数えました。

今回は少し志向を変え、①チェックシートを使っての「エコレベル・チェック」と、②「エコレシピコンテスト」の二本立てで実施いたします。

「エコレベル・チェック」は、ランチ時に生じている、ムダと思われる資源について考えることがねらいです。区のホームページによると、生ごみは、家庭から出される可燃ごみの3分の1を占めており、水分を多く含むため、清掃工場の焼却には多くのエネルギーを必要とするそうです。

「エコレシピコンテスト」では、食材や調理法によるエコな工夫を盛り込んだレシピを募集します。震災後、できるだけ電気やガスを使わない調理法などが注目されるようになりましたが、ほかにどんなエコな工夫があるのかご存知の方、また、いろいろアイデアをお持ちの方等々、沢山のご応募をお待ちしています。

なお、1次審査を通過した方には、CES環境リーダーが作成した「エコアート」を贈呈します。さらに、最優秀賞を受賞した方には、次回ランチエコキャンペーン（来年3月開催予定）でエコレシピを実演・披露していただきます。



- | | |
|-------------|------------------------------|
| ①エコレベル・チェック | 実施期間：11月11日（月）～15日（金） |
| ②エコレシピコンテスト | 応募受付期間：11月5日（火）～15日（金）※締切日必着 |
- 参加方法等の詳細は、CES推進協議会ホームページ（下記URL）に掲載しています。
<http://chiyoda-ces.jp/class1/lunch-eco/entry/>

2. 大原学園のクラスⅢ監査を実施

今年の6月から新たにクラスⅢ活動に取り組んできた「学校法人大原学園」で、先頃初めて監査を実施いたしました。

ご存知のとおり、大原学園は「資格の大原」と云われるように全国に分校を持つ各種資格の専門校であります。今回の監査は区内西神田の「1号館」において取り組んできたクラスⅢ活動に対するものです。監査は、去る10月15日（火）に行われ、監査後の手続きについては、これまでと同様に、当協議会から監査報告書を区（環境・温暖化対策課）に提出し、追って、区のCES認証委員会にはかられることとなります。

3. 千代田区の「施設経営課」と「麴町幼稚園」がクラスⅢ活動で初の表彰

先頃実施した千代田区でのクラスⅢ監査の結果をうけ、他の模範となる取組みを行っている課・施設として、「施設経営課」と「麴町幼稚園」が表彰されることになり、10月28日（月）、区役所会議室で表彰式が行われました。これはクラスⅢ活動が始まって以来、初めてのことです。

今回表彰された理由として、施設経営課については、施設内の管理や帳票類の記入などをしっかりと行っている点、営繕業務の際、新しい技術や環境に関する工夫を施設に採り入れ、それを通して環境啓発活動を行っている点等が評価されました。また、麴町幼稚園については、掲げる目標「1.自分 2.自然 3.資源を大切に作る心を育てる」に向けて、クラスごとに明確な目的をもち、保護者、地域社会の協力を得て、生きた「環境教育」を実践している点や、グリーン購入率 100%を達成している点等が高く評価されました。



表彰式に出席された担当者からは、「子供たちにとって少しでもいい環境づくりができればという想いで取り組んできました。今回の受賞を励みにより活動を広めていければと思います。」というご感想があった一方で、「(照明の照度等) 省エネと、区民の方々の快適さのバランスをどう取るかが難しいです」といった、業務とクラスⅢ活動の両立の苦労も垣間見えました。

「施設経営課」と「麴町幼稚園」の職員の皆様、表彰のご受賞おめでとうございます。(写真:千代田区広報広聴課 提供)

4. 第6回 理事・役員会を開催

去る10月22日(火)に、理事・役員会(第6回)を開催しました。

付議事項は、本年度の上半期(4月～9月)における活動状況及び収支状況の報告です。活動状況については、クラスⅠ、Ⅱ及びⅢのそれぞれが事業計画どおりに進捗しており、収支状況についても活動に沿った進捗であることを報告しました。また、検討事項については、次年度に向けた事案及び会則の見直し等について提起し、意見等を伺いました。

なお、次年度は、理事・役員会の改選期でもあり、事業計画及び予算編成を含め、年度後半の2～3月に再度理事・役員会を開催する予定です。

5. クラスⅠ 秋の事業 ～環境リーダー報告より～

毎年、秋はCESクラスⅠ事業がもっとも盛んな時期です。環境リーダーからの事業報告書等を基にご報告します。

(1) 環境講座(第3回:水道の歴史を学ぶ)

日時:10月5日(土) 場所:東京都水道歴史館等 参加者数:11名
東京都水道歴史館や東京大学を訪れ、水道の歴史や街路樹の出身地、東大内の植生等について学びました。参加者からは、「水道歴史博物館では、江戸時代からの水道の仕組みの流れが具体的に見られてとても良かったです。(略)江戸時代の井戸に集まる井戸端会議で、人の結びつきが『水』を通じてできていたとは」、「東大の植生を知る活動では、巨木達に圧倒され、名も知らぬ草樹を知る事が出来 興味深かった。(略)植物の世界でも外来種がはびこっていることにも改めて驚いた」といった声が寄せられました。



(2)「第11回福祉まつり」ブース出展

日時：10月12日（土） 場所：区役所区民ホール

参加者数：約60名（CESブース）

CESのブースでは、新聞紙等の古紙を活用した「折り込みチラシでボックスとカブト作り」を実施しました。「作り方を教えて欲しい」「カブトをかぶってみたい」と皆さん、楽しそうに参加されていました。併せて、CES事業の紹介（環境講座、ランチエコ、ウォーキング・プラス等）を行うとともに、出来上がったボックスやカブトに、CESのシールを貼って、PRを行いました。



(3) ウォーキング・プラス・環境物語りシリーズ「第1回ごみの物語り～ごみを拾って考えよう」

日時：10月19日（土） 場所：神田～秋葉原（万世橋区民会館）

参加者数：9名 学生ボランティア参加者数：5名 法政大学田中教授

神田から秋葉原まで、近隣の和光稲荷や松尾神社、最新施設のワテラス等を見ながら、ごみ拾いを行いました。その後は、ごみの分別を行い、各自持参したお弁当で昼食。また、座学として、千代田清掃事務所のご担当者から「分別のお話とふれあい収集」、講師の松沢友紀氏から「ごみの物語り」についてのお話がありました。

参加者からは「ゴミがある部分に集中してごみを捨ててしまう、人の習性があるようです。(略)ゴミを捨てさせない町づくりをしてゆくことが大切だと感じました」、「区の景観に寄与する建築物を見られて、新しい千代田区の表情を知る事が出来ました」、「エコロジカル・フットプリントのお話は、大変衝撃的でした」等のご意見をいただきました。

今回は、法政大学と明治大学の学生の皆さん（5名）がボランティアとして参加していただき、法政大学の田中教授もご同行されました。1月に予定している第2回では、上智大学の学生も参加を予定しており、「CESを通じて、大学間の環境ネットワークを築ければ」と環境リーダーも期待しています。

*なお、福祉まつりとウォーキング・プラスでは、和光堂株式会社から、国産材を使った紙製飲料缶「カートカン」やファイルをご提供いただきました。ありがとうございました。



(4) 臨時環境リーダー会議

日時：10月10日（木） 場所：区役所4階会議室 参加者数：11名

クラスI推進部会の部会長と、環境リーダー会のメンバーで、「臨時環境リーダー会議」が開催されました。

これまで、個人対象事業の企画・立案等を行う「クラスI推進部会」と、I推進部会を支援する組織である「環境リーダー」が交流する機会がなかなか持てませんでしたが、今回初めての実現に至り、積極的な意見交換がなされました。

(5) 新規メンバー

今月は、会員及び環境リーダーとして、新たに2名の方にご入会・ご登録いただきました。

トピックス番外編 ～当協議会会長のゼミが新聞で紹介されました～

CES推進協議会は、環境配慮活動の企画運営として、個人、企業、学校団体等の環境啓発に関する活動を実施しており、当協議会の会長は大森正之 明治大学教授(環境経済学)であります。去る10月21日付「東京新聞」“ぶらーり キャンパス 研究編・明治大”で、大森教授指導のゼミ生による「区内の緑化促進策」の取組みに関する記事が掲載されました。

近年都心では、「屋上緑化」や「壁面緑化」した新築ビルが目立ってきています。そうした緑化ビルは、エアコンの使用を抑制し、地球温暖化防止につながりますが、ゼミ生がそのさきがけとして研究に取り組んでいます。



緑化ビル (ウォーキングプラスにて撮影)

かんきょう

先述の「ウォーキング・プラス」環境物語りシリーズ“ごみの物語り～ごみを拾って考えよう”では、単にごみを拾い集めると言うだけでなく、拾い集めたゴミを「分別」し、更には、分別されたゴミがどのように「処理されて」ゆくのかなど、集められたゴミを前にしての講義がありました。参加者にとっては、新たな認識につながる貴重な機会だったようです。日頃何気なく扱われている「ごみ」がたどる工程を知ってもらう、という企画でした。

ところで、「ゴミのない社会」はどのようにすれば出来るのでしょうか？

ゴミの発生をなくす「ゼロ・ウェイスト宣言」を、1996年に世界で初めて宣言した都市はどこかご存知でしょうか…？

埋めても、燃やしても地球環境にダメージを与えるゴミ問題。そこで生まれた逆転の発想が、「ゼロ・ウェイスト」だそうです。

「ウェイスト」とは廃棄物のことで、処分に悩むよりも、ゴミそのものをなくしてしまう、と云う考え方です。1996年、オーストラリアのキャンベラ市は、「2010年までにゴミをゼロにするゼロ・ウェイスト宣言」をしたそうです。そして2003年には、最終的なゴミの処分量を約69%も減らすことに成功し、その後も世界各地でゼロ・ウェイストへの取組みが行われているそうです。

この活動に欠かせないのは、生産者・消費者・自治体の協力体制で、「ゴミにならないものを作り」、「ゴミにならないものを使う」、そして「リサイクル・システムを徹底させる」ことで、より効果を上げることが大事なようです。

CESの活動もそうした認識の啓発をめざし、身近な環境テーマに着目した企画で実践していることをご理解いただければ幸いです。

(s k)

